

「パウロの人生 ビフォーアフター」

ローマ 15:22~33

かつてのアメリカ大統領アブラハム・リンカーンは当時の側近や事業主に謎々をよく出したそうです。例えば「犬には4本の足があり、尻尾があります。その尻尾に『足』と名前を付けた時に、さて足は何本でしょうか？」答えはやはり4本です。たとえ尻尾を足という名前にしても足ではないのです。現代の日本では自分の命を自ら絶ってしまう悲しい事例が多くあります。リンカーンが伝えたいのは、あなたの尻尾は尻尾であり足になることはない。あなたが積み上げてきた立派な実績はただのレッテルであり、それによって生きるのではない、ということなのです。現在児童精神科医でクリスチャンでもある佐々木正美医師は当時では認証されていなかった児童精神科になることに周りの多くの人は子供が精神病になることはないかと反対をしましたが経済成長にあった日本において親たちにレッテルをはられその部分だけに価値があると思う事で親の思うとおりに生きられないと感じた子供に精神病は起こりうると思えました。その結果生きる目的を失うのです。佐々木医師は言います。「根拠のない自信が持てる子に育てなさい。」

神様は私たちに今の現実ではなくあなたに与えている将来に向かって本当に信じて歩んでいるかと聞かれています。自分に貼られたレッテル、自分で貼ったレッテルは何でしょうか？

■ 保守と変化

今までの私たちの人生は自分が描いたようなものでしたか？おそらく多くの方はそうではありません。ですがプロセスは違っても結果そうになっているという事があります。神様は私たちに志を与えます。小さな子供たちは夢を描きます。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。(ピリピ 2:13)」そのために私たちは計画を立てますがその通りにはなりません。ですが神様と共に歩んで行くと途中は思い描く夢物語ではなく人生を狂わせるような、理不尽にも思えるような出来事を通してその事が解決し、結果その立てた志が成っていくのだらうと感じるのです。パウロはダビデの家系で由緒正しい特別な人というレッテルを貼られて生きていました。パウロがサウルの頃は、あるものを否定する排他的な人生でしたが後世にはあるものを変えようとする人生に変わりました。これは彼のビフォー(保守)アフター(変化)でした。秩序と文化は守る必要がありとても大切な事ですが変化もとても大切です。私たちは保守と変化のバランスが保たれているのでしょうか。

■ キリストの召しの土台 人生に中期、長期計画を立てる！！

長期計画を立てることが出来る人がいます、ですがそれだけでは地に足がつかず単なる夢想家で終わってしまいます。短期計画だけしか見えない人がいます、それだけでは単なる実務家でしかありません。ローマ書 15 章は結論章でありパウロの計画が書かれています。パウロはローマ東部の宣教を終え過去の成功の上に安住して隠居生活を送ることもできましたが神の召しを握り最後まで現役を貫きました。牢獄の中でパウロが立てた長期計画の中にはそれに向かうために短期的なしっかりとした神様の計画がありました。それはすでに人々が進んでいる方向に宣教のために送り出すという大切な要素もありました。パウロが描いた長期計画はバプテスマのヨハネのイエス・キリストが造られた道をそなえるためであり彼はその人生の道に送り出されたのです。私たちはこのことを知っておかねばなりません。私たちが歩こうとしている道、すなわちパウロが歩こうとした道はイエス・キリストが来た時にバプテスマのヨハネや弟子たちを通して造り上げられた命かけの道であり私たちもそこに送り出されなければいけません。そこには多くの祈りがあります。私たちが行う時には多くの祈りと環境が整っているのかということ、一緒に志を持って本気になってくれる人がいることはとても大切です。パウロにとっては違う道であったかもしれませんが。ローマに行きたかったにも関わらず用意されませんでした。獄中の中から手紙で伝えられ彼は囚人としてローマに行き届きました。そしてエルサレムのクリスチャンに祝福をもらいました。結果は素晴らしいものであり今の私たちにその福音が伝わっているわけです。自らで長期と短期の計

画を立てキリストと共に進みなさいと言われていました。長期計画を立てる時にそこには沢山の非難が起こるかもしれませんが。しかしその時にパウロのように、非難する人々の言葉を受けて聴きましょう。あなたにとって大切なことがその言葉の中にあります。そして短期計画を立てる時には小さなことをコツコツと積み上げていくことが大切ですが、往々にして「自分だけが苦しいのではないか？」と疑いを持ち、周りと比較してしまうことがあります。しかし、そうではないことを受け取り、小さなものに忠実でありましょう。

■ そして役割の責務を果たす それを継承していく

神様は私たちを通して多くのことを成されようとしています。今は祝福されていたとしても苦難の道を通ることもあります。だからこそ聖書のみことばによって生きています。どのような時でも私たちは受けた恵みを感謝して返す、すなわちそれは喜んで流すというルール・責務なのです。そして神様はそこで活躍して欲しいと願われているのです。パウロは誰にも大事に読まれないような箇所を通してとても大切なメッセージを私たちに伝えていきます。異邦人がユダヤ人に対してしなければならぬ大切なメッセージを伝えながら自分たちを迫害し献金する受け取る気のないクリスチャンとしては間違ったこととしていたエルサレムの教会を愛し仕えようとしていました。彼らも溢れているところから捧げているわけではありませんでした。神様から預かったものとして集めて自分たちを受け入れないエルサレムの教会を祝福しようとしていました。ここにクリスチャンの生き方すなわちイエスキリストの生き方があります自らで長期と短期の計画を立てキリストと共に進みなさいと言われていました。それは祈りによって完成され継承されるのです。

■ 祈りの格闘

- ① 祈りの援護「スナゴニゾマイ」…激しい格闘に加勢することです。私たちはどれだけのの人に祈ってもらっているかが大切です。皆さんには分かち合い祈る友がいますか？自分の為に是非祈ってもらいましょう！
- ② 祈りとは霊的な戦いそのもの…戦いは血肉に対するものではありません。(エペソ 6:12) 短期計画・長期計画を為して行く時に祈りなくしては何も進めることはできません！なぜなら、たとえどんなに良いことをしても神様不在で事を為すのでは意味がないからです。
- ③ 共通の祈り…クリスチャンは会ったことがなくても、共通の祈りを捧げることが出来ます。これはクリスチャンでなければできません。

■ まとめ

パウロは成すべき事を成し完了していましたが神様からの道を進み続け、それが継承されるように次の働きをしました。なぜでしょうか？神からの志は世の終わりまで続くからです。あなたがしたいと願っている事はあなたの代で終わりませんか？それとも先がありますか？私たちは神様の計画のほんの一瞬でしかありません。神様は永遠の歯車の中で私たちを尊い作品として今この場所に置かれました。主が道を造られます。ヨハネがその道を整えようとしたように私たちもします。我が子私に従うために命をかけるものは誰か。神様は探しています。主は志をあなたに立たせます。その志をあなたは神様と一緒にこなしてください。主の言葉に従う道が与えられますように。あなたに与えられている計画を果たしていくためにあなたには既に賜物が備えられています。それを信じて新たな一歩を踏み出しましょう！

(要約者:西崎 真由美)

(2020年1月26日)